◆外　　科

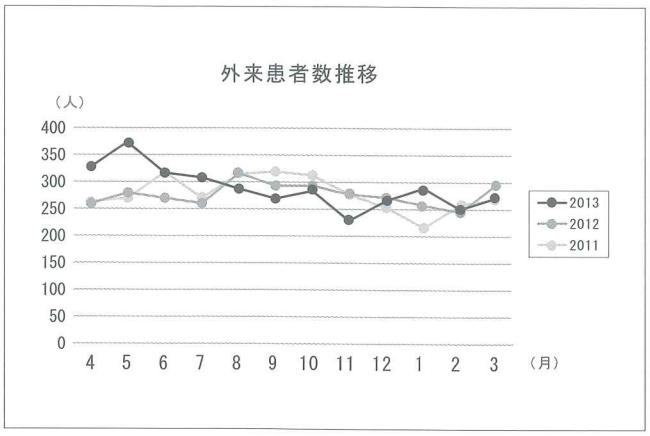
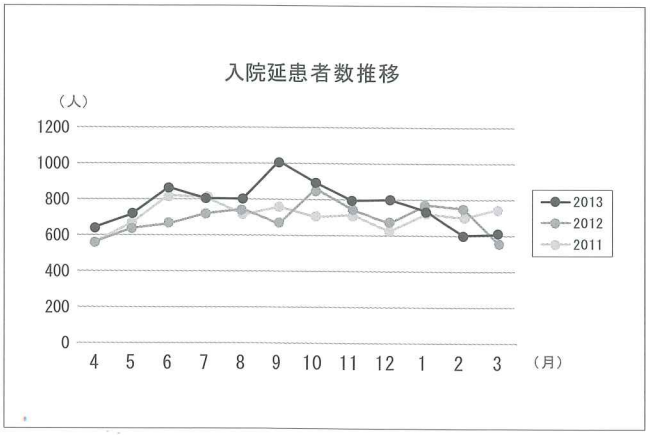
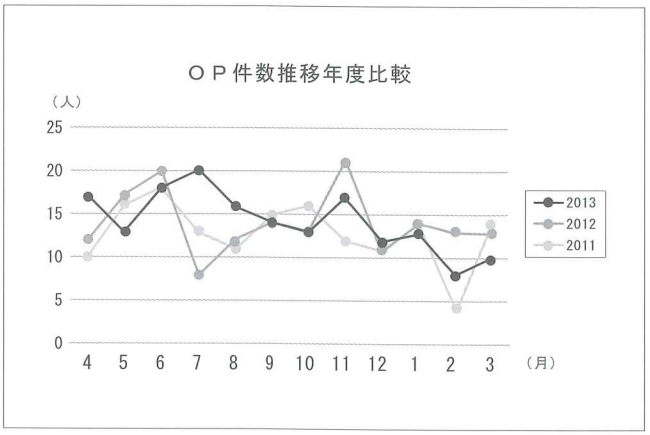
部　長　田辺大朗

2013年度の外科への直接の新入院患者数は237例で、感染症11例、悪性新生物53例、呼吸器疾患７例、消化器疾患57例、その他109例だった。

手術件数は前年度と同数の168例であった。全麻・腰麻手術は、前年度140例から144例と微増した。

悪性新生物は前年度51例から49例となった。内訳は胃癌が前年の14例から19例に増加した。うち腹腔鏡下胃切除術は７例施行した。大腸癌は19例で、うち直腸癌は７例で前年より増加した。肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除を２例に行った。2013年度の乳癌は７例で、温存手術は２例に施行し、熊本市内の病院と連携し術後放射線照射まで行っている。

胆石・胆嚢炎では計40例に手術を行い、うち腹腔鏡下胆嚢的手術を37例に行い鏡視下手術の遂行率は92.5%だった。急性虫垂炎は９例で前年とほぼ同数だった。うち４例に鏡視下手術を行った。鼡径・大腿ヘルニアは30例だった。

鏡視下手術の総数は51例で全手術症例の35.4%を占めた。

近年の悪性疾患に対する化学療法の進歩に伴い、当科でも進行・再発癌や悪性疾患術後化学療法を積極的に行っている。前年より外来化学療法室が活動を開始し、外科単独でも前年度29例に施行している。内訳は胃癌９例、大腸癌７例、乳癌７例、肝胆膵領域３例、その他３例だった。外来化学療法室が稼動することにより、日ごろから病気と向き合っている患者さんにはよりリラックスした環境で治療を受けていただけると考えている。